

苫小牧市社会福祉協議会 第6期地域福祉実践計画

第1章 計画策定にあたって

1. 地域福祉を推進する

社会福祉協議会の大きな役割である地域福祉の推進のためには、地域住民と協働したまちづくりが重要であると考えます。

市民との協働により、地域のために一人ひとりが福祉活動を実践的に捉え、社協とともに能動的に地域をリードすることが、更に充実した活動になると考えます。

それは、市民一人ひとりが課題に「気づき」、何ができるか「考え」、できることを「行動に移す」という市民参加を推進していくことであると考えます。

少子高齢化の進展する中においては、地域全体で福祉活動を進め、住民が主役になって住みやすい地域を構築することが求められています。

社協としても地域活動をサポートしながら、一人ひとりが笑顔で、ここに住んでいてよかったと思えるまちづくりを推進していきます。

なお、苫小牧市が策定する第3期地域福祉計画とは車の両輪の関係にあり、相互に補完して地域福祉の推進を図っていきます。

2. 地域福祉実践計画のねらい

苫小牧市社会福祉協議会では、介護サービスや委託事業だけでなく、住民主体の考え方から「ふれあいサロン」、「あんしん生活サポート事業」など地域住民と協働した活動を展開してきました。また、ボランティア活動や福祉学習、権利擁護等においても推進してきました。

今後も、市民と協働した事業展開を行ううえで、市民と理念を共有し、市民活動を支援していきたいと考えます。

そして、今まで以上に市民との協働をすすめ、地域福祉を推進するために本計画を定め、事業を推進していきます。

第2章 苫小牧市における現状と課題

○ 苫小牧市におけるアンケート結果について（令和元年苫小牧市アンケート調査抜粋）

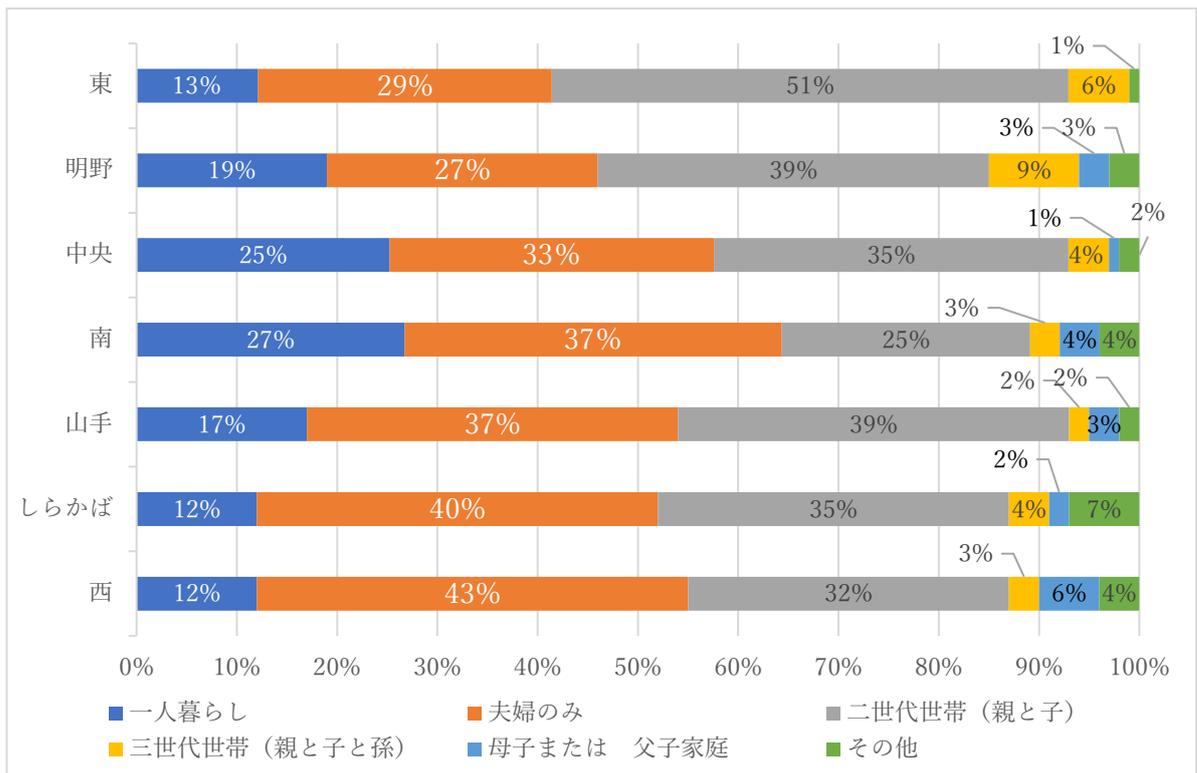
苫小牧市が地域福祉計画の策定にあたり行った市民アンケートの結果を一部抜粋し、苫小牧市における地域の現状を市内7つの包括支援センター圏域毎にまとめました。

苫小牧市の概要

	平成14年7月末	平成21年7月末		令和2年7月末		
	人口等	人口等	平成14年比	人口等	平成14年比	平成21年比
人口	173,001人	173,811人	810人増	170,550人	2,451人減	3,261人減
男性	84,586人	84,927人	341人増	83,463人	1,123人減	1,464人減
女性	88,415人	88,884人	469人増	87,087人	1,328人減	1,797人減
高齢者人口	27,184人	35,059人	7,875人増	49,823人	22,639人増	14,764人増
高齢化率	15.71%	20.17%	4.46P増	29.21%	13.50P増	9.04P増
生産年齢人口	120,298人	114,831人	5,467人減	99,765人	20,533人減	15,066人減

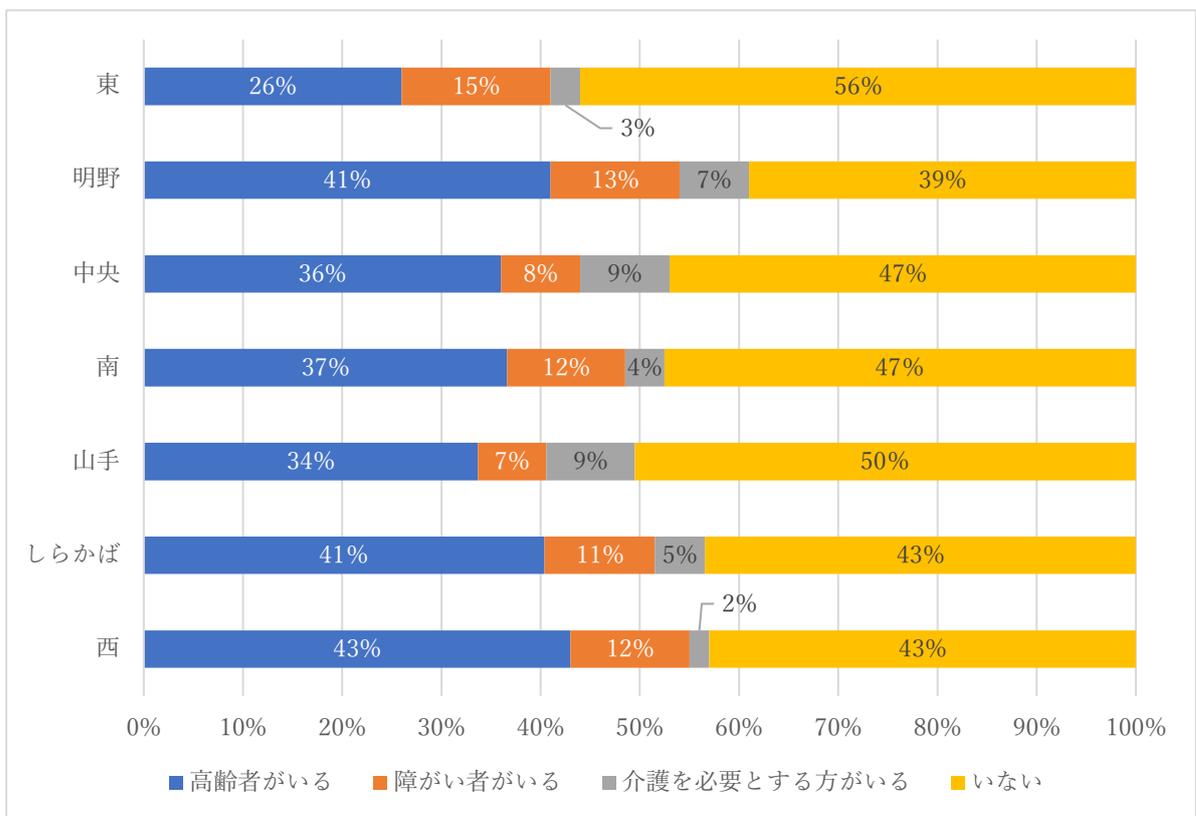
1. 世帯について

(1) 世帯構成を教えてください。



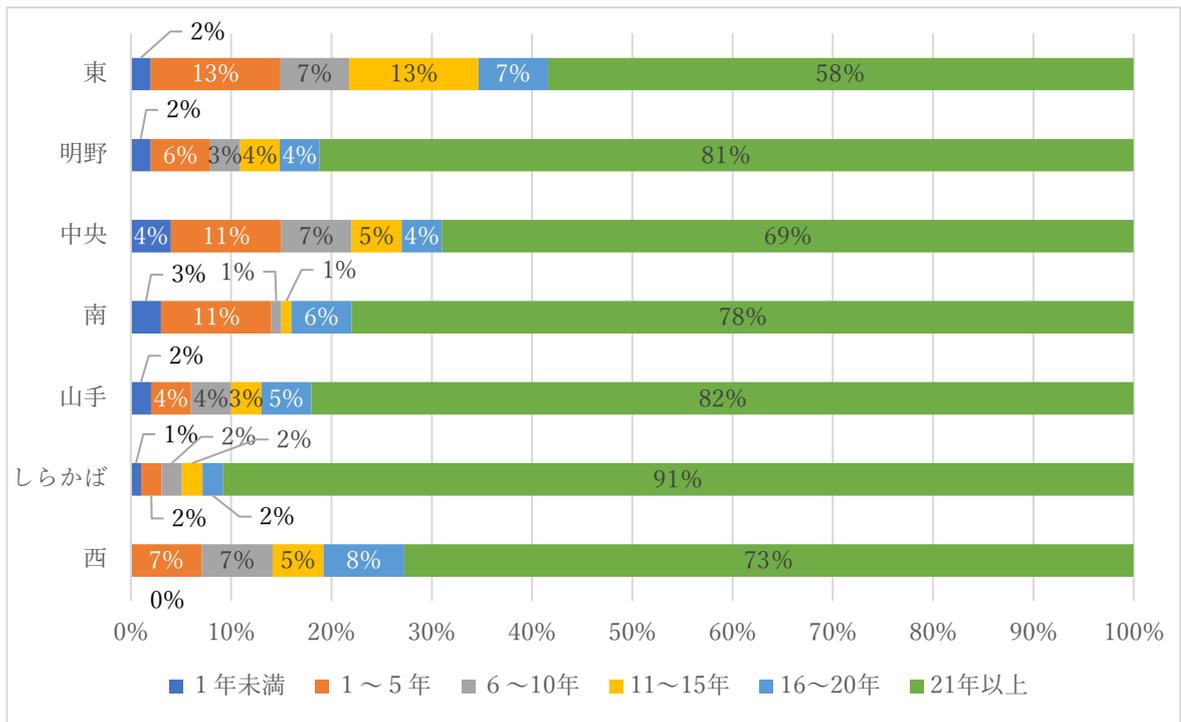
- 苦小牧市の人口は減少傾向ですが、高齢者は増加しており、高齢化率が 30%に迫る勢いです。ほとんどの圏域で夫婦世帯と二世帯世帯の合計が7割を超える結果となっており、苦小牧市でも核家族化が進んでいることがわかります。
- 新興住宅地がある明野・東包括圏域の東部地域は半数以上が親子世帯となっており、特に東包括圏域が半数以上と突出しています。しかし、三世帯世帯も他圏域より多く、両圏域で15%程となっております。
- 西・しらかば包括圏域の西部地域は、夫婦世帯が40%を超えており、今後、一人暮らし世帯が増えていくことが予想されます。

(2) 世帯に高齢者・障がい者の方はいますか？



- 全体の半数以上に高齢者や障がい者がおり、6%程度に介護を必要としている方がいることがわかります。
- 自立した生活を送っている方も多く、介護を必要としている方の支援はもちろんですが、自立した暮らしをしている方が、今後も安心して自立した生活を送れるような支援を行っていかねばなりません。

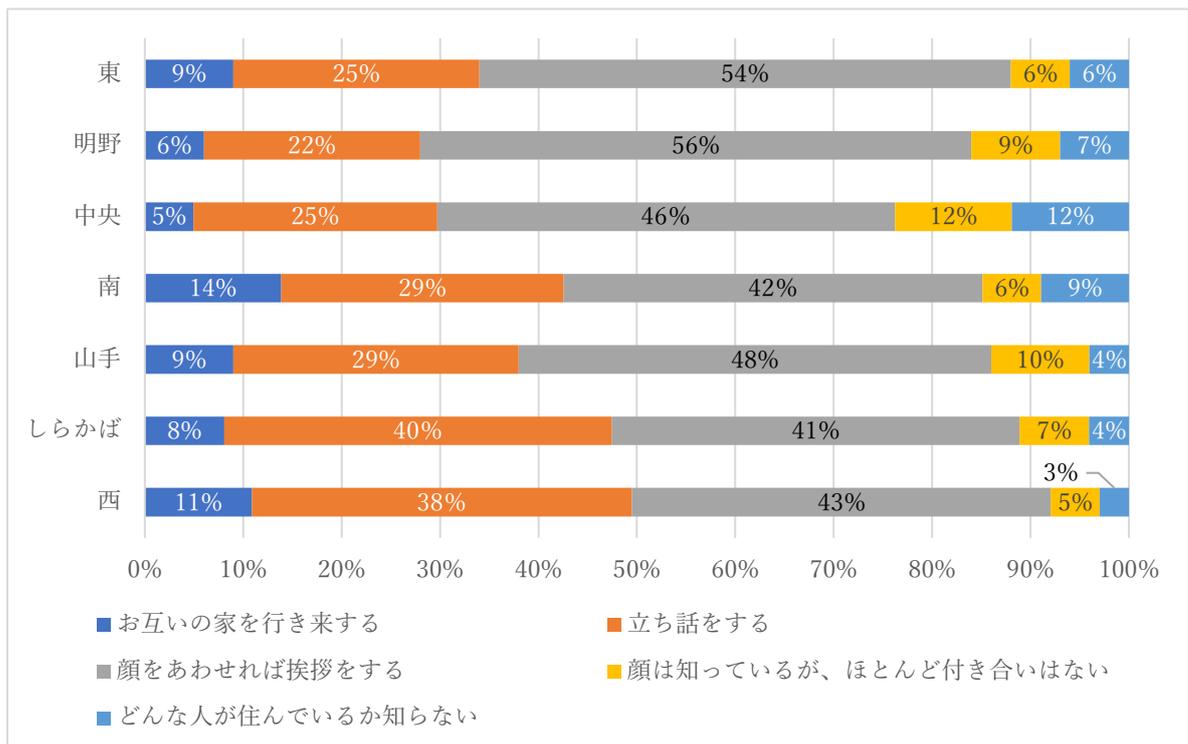
(3) 苫小牧市での居住年数について



○全体の7割以上が苫小牧市で20年以上暮らしており、長く苫小牧市に居住されている方が多くなっていることがわかります。

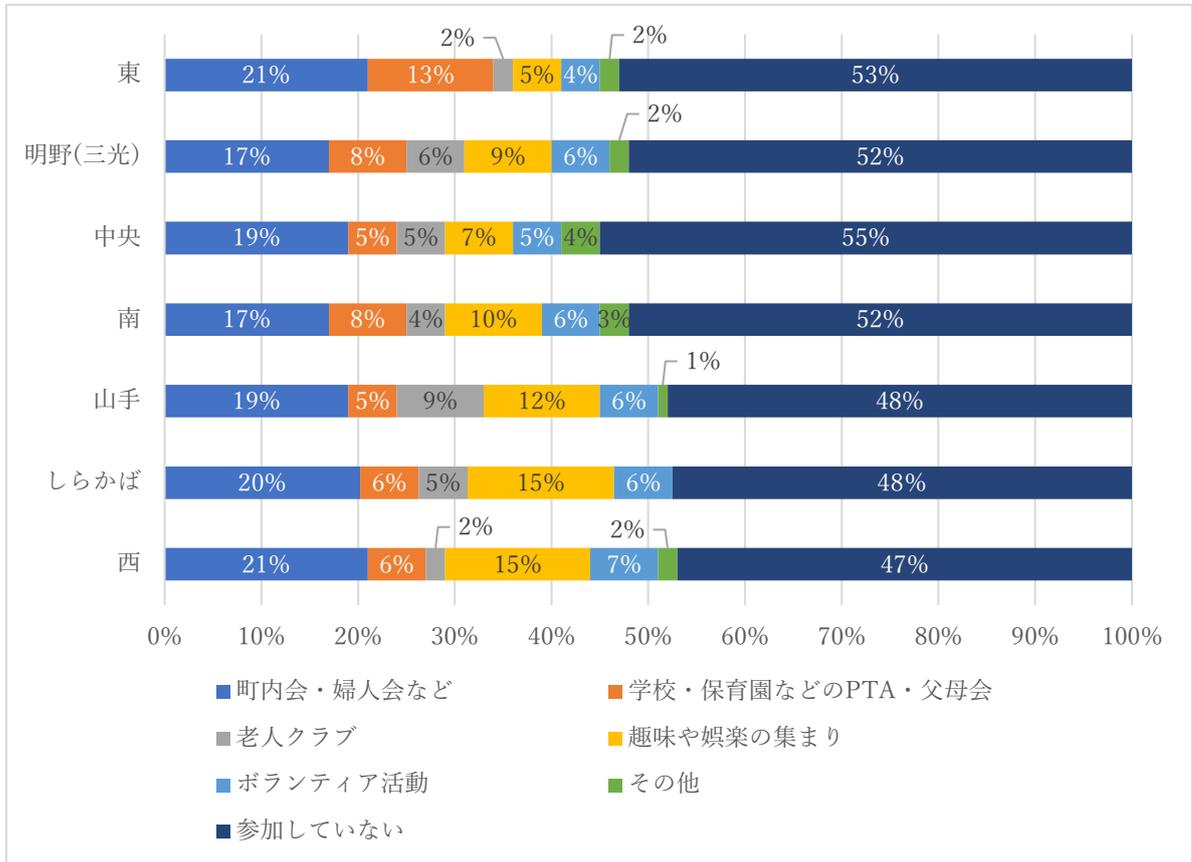
2. 地域との関わりについて

(1) 近所の方とどのようなお付き合いをしていますか？



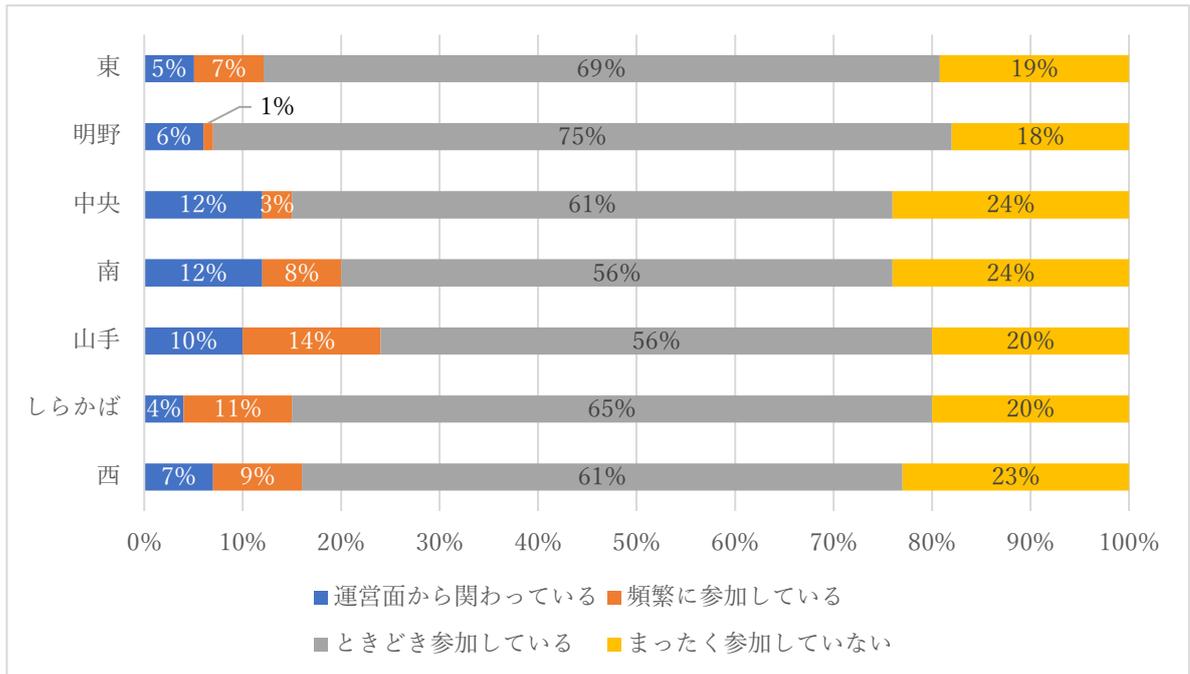
○隣近所とほとんど付き合いがない、どんな人が住んでいるかわからないと答えた方を合わせると全体の 14%で、隣近所と関りを持たない方は、少なくありません。特に中心部にその傾向が強いことがわかります。

(2) どのような地域活動に参加していますか？



○参加していないと答えた方が半数おり、町内会・女性部への参加は 20%程度にとどまっています。

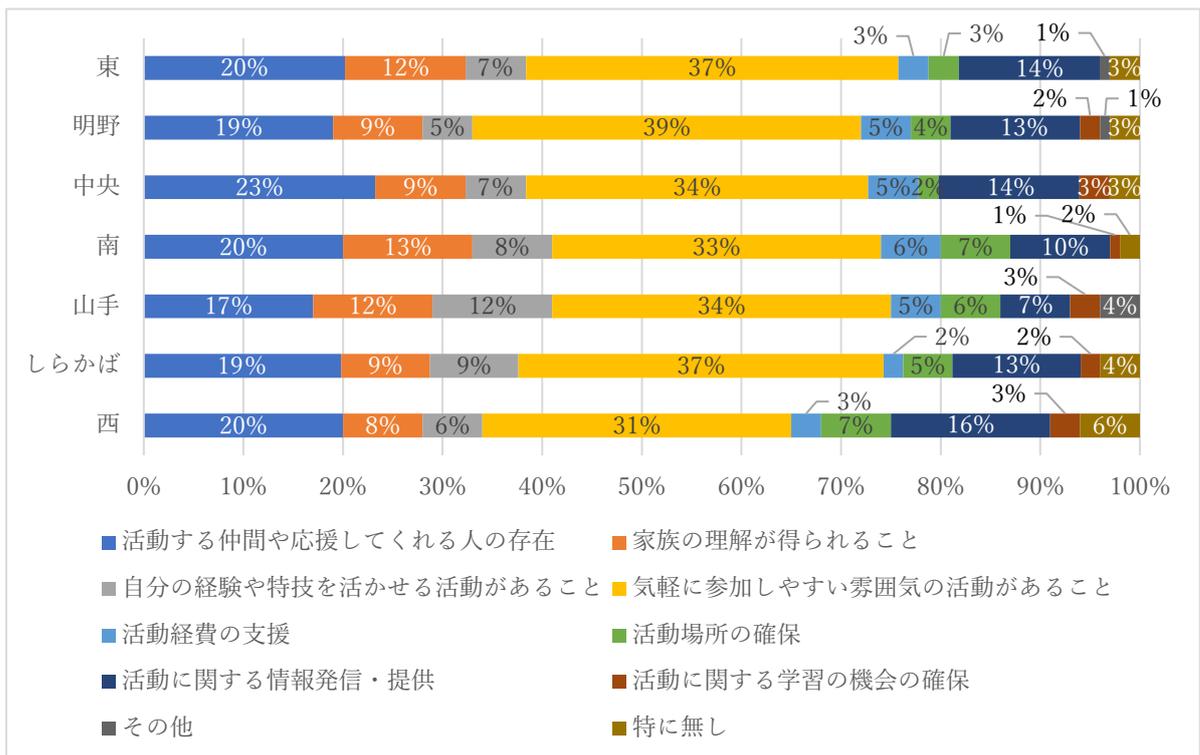
(3) 地域の行事にどの程度参加していますか？



○「時々参加」も含めると、各圏域ともに地域行事等へ約 80%の住民が参加しているのに対し、運営面からの参加はまだまだ少ない状況にあります。

○運営面から関わっている方も全体の 8%程度おり、頻繁に参加する方も 8%程度います。今後は、このように頻繁に行事へ参加している方などへの地域活動参加のアプローチをとっていくことが必要であると思われます。

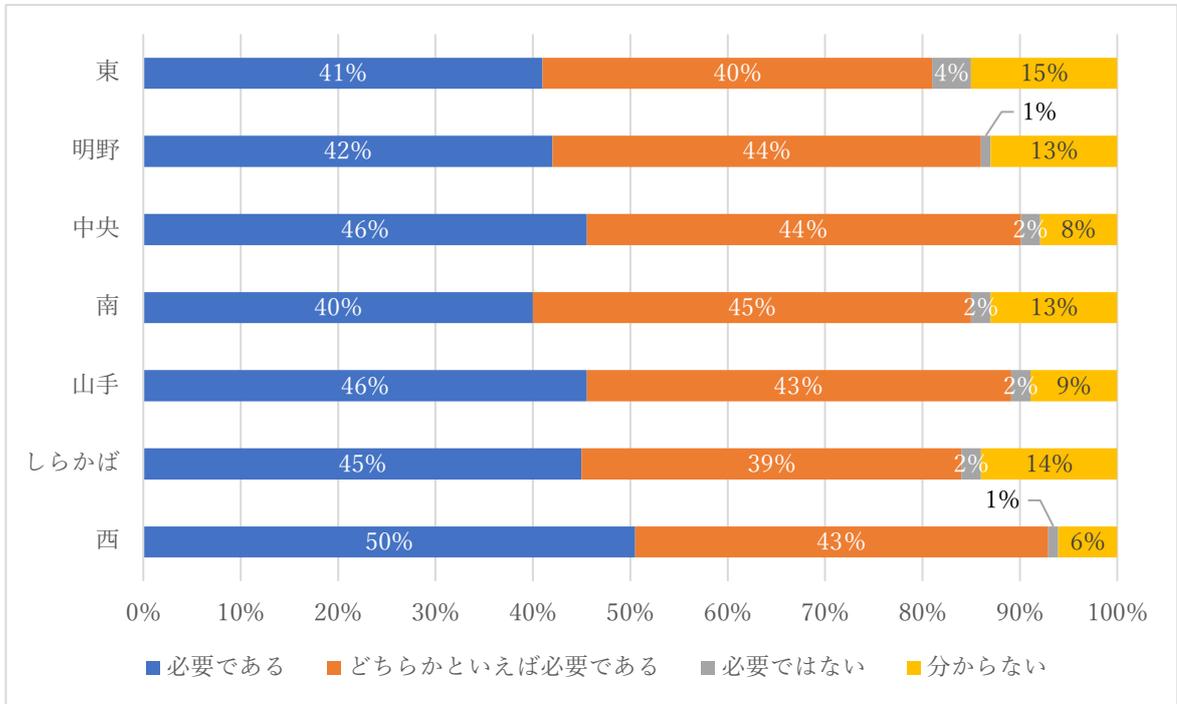
(4) 地域活動を活発にしていくために大切なことは？



○地域活動への参加について3割強の市民が「参加しやすい雰囲気」を挙げており、新たな人材確保に向けては、参加しやすい雰囲気づくりをしていく必要があります。

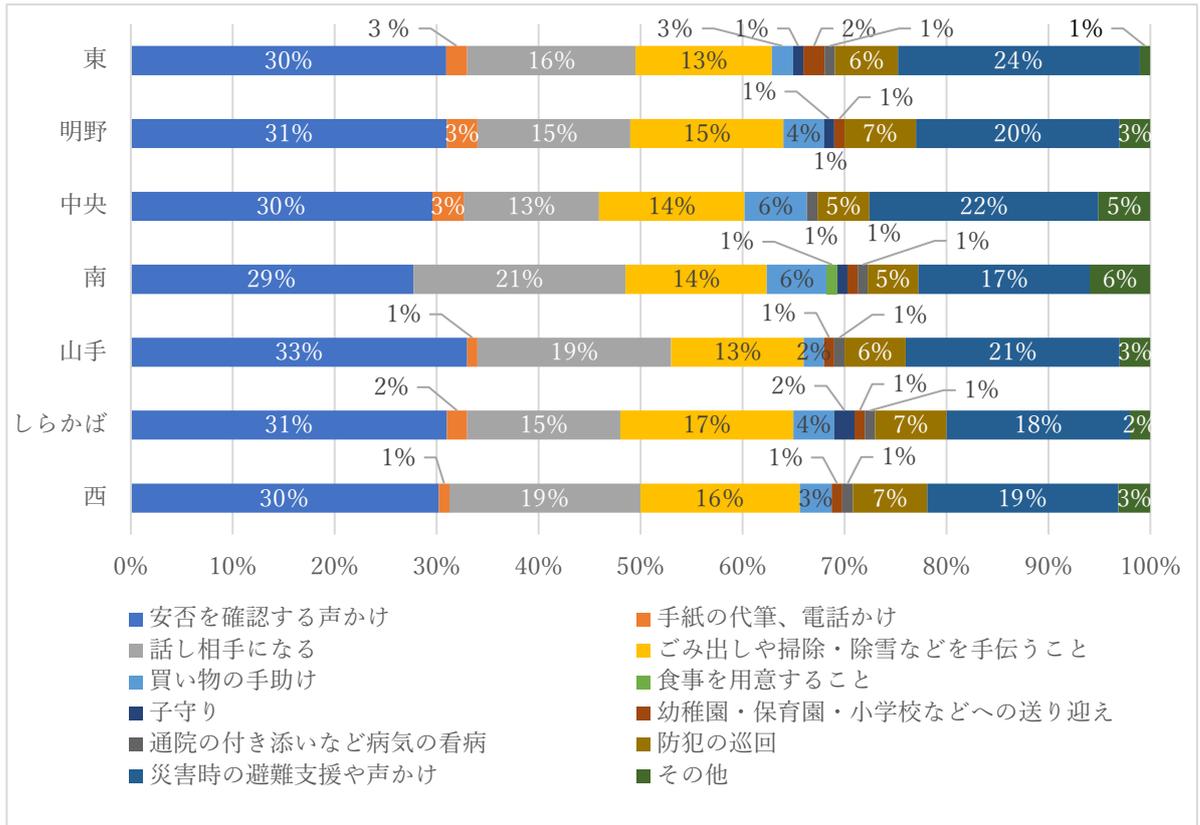
3. 地域福祉活動への考え方

(1) 地域の福祉課題に対し、地域住民の自主的な助け合いが必要であると思いますか？



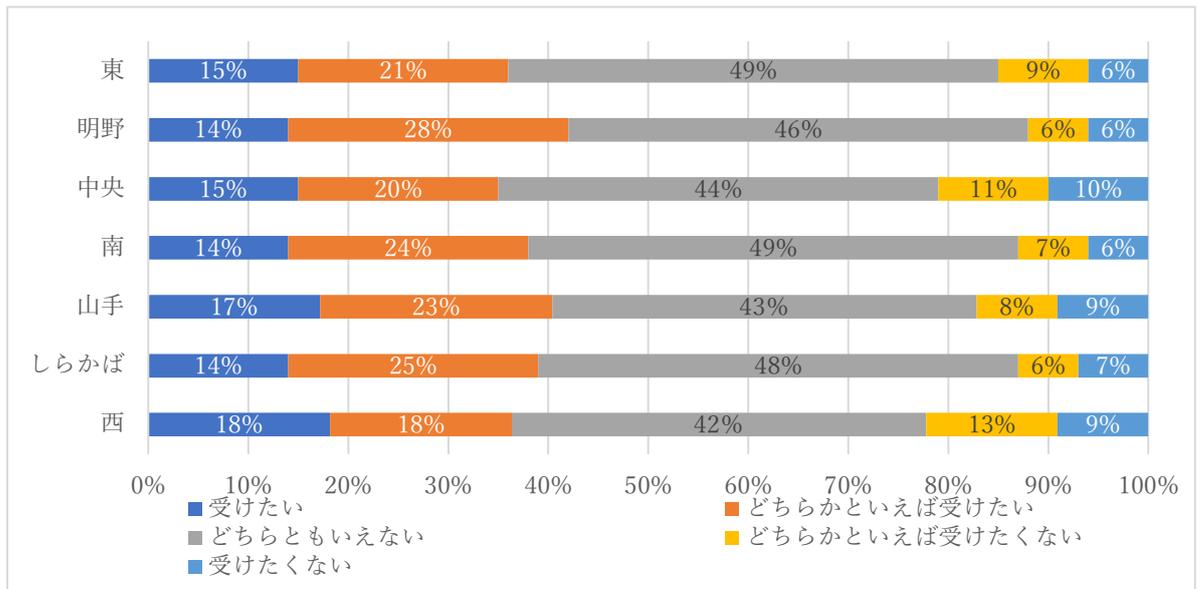
○地域における課題に対し、地域住民の自主的な助け合いは、「必要である」と回答した方に、「どちらかといえば必要である」と回答した方を含めると、77%がなんらかの助け合いの必要性を感じていることがわかります。

(2) 高齢者や障がい者、子どもなどがある近所に対して、あなたができることは何ですか？

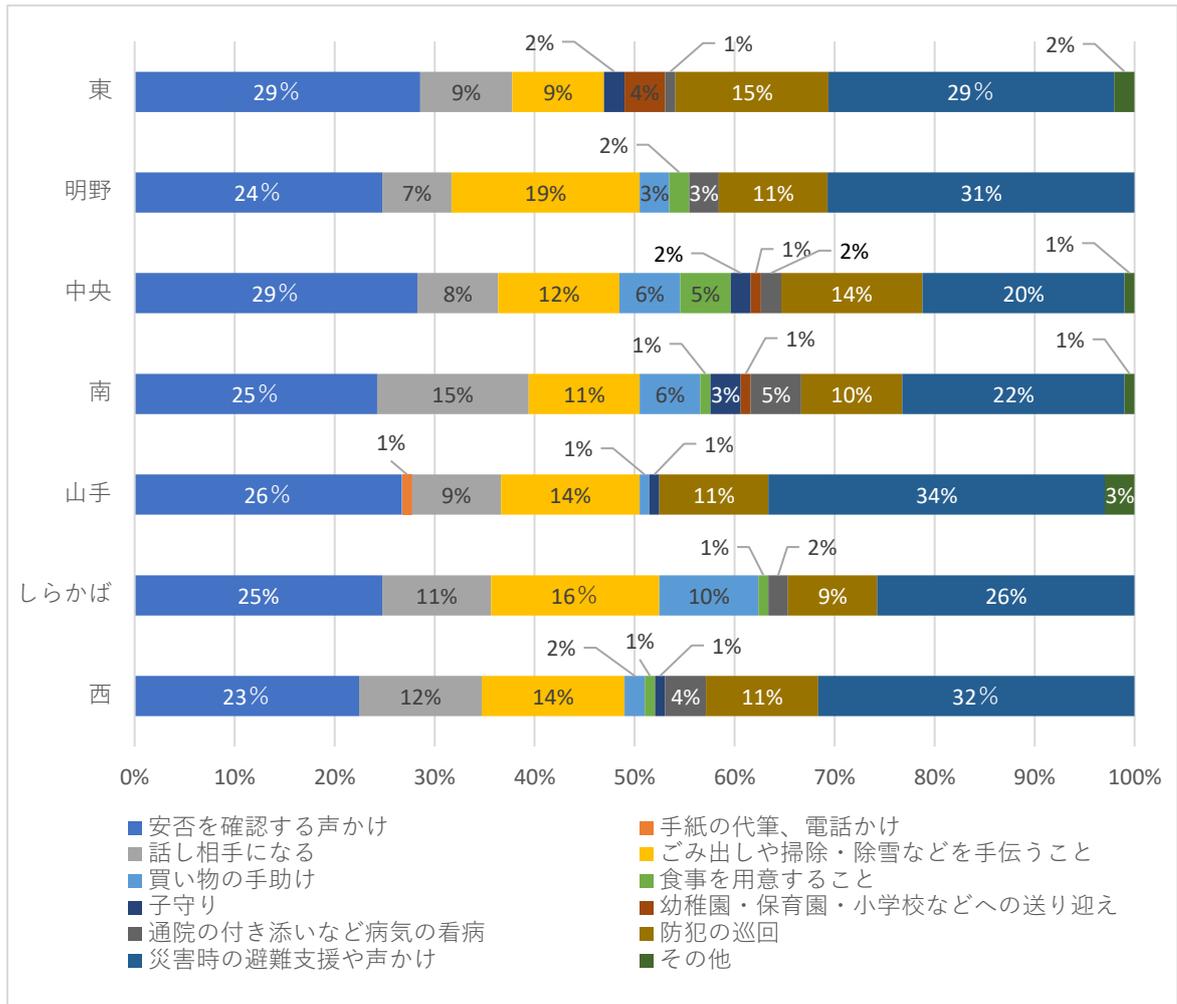


○どのようなことができるかという問いには、安否確認などの声かけの他、災害時などの緊急時における支援を挙げる方が多いようです。

(3) あなたは地域住民による支援を受けたいと思いますか？

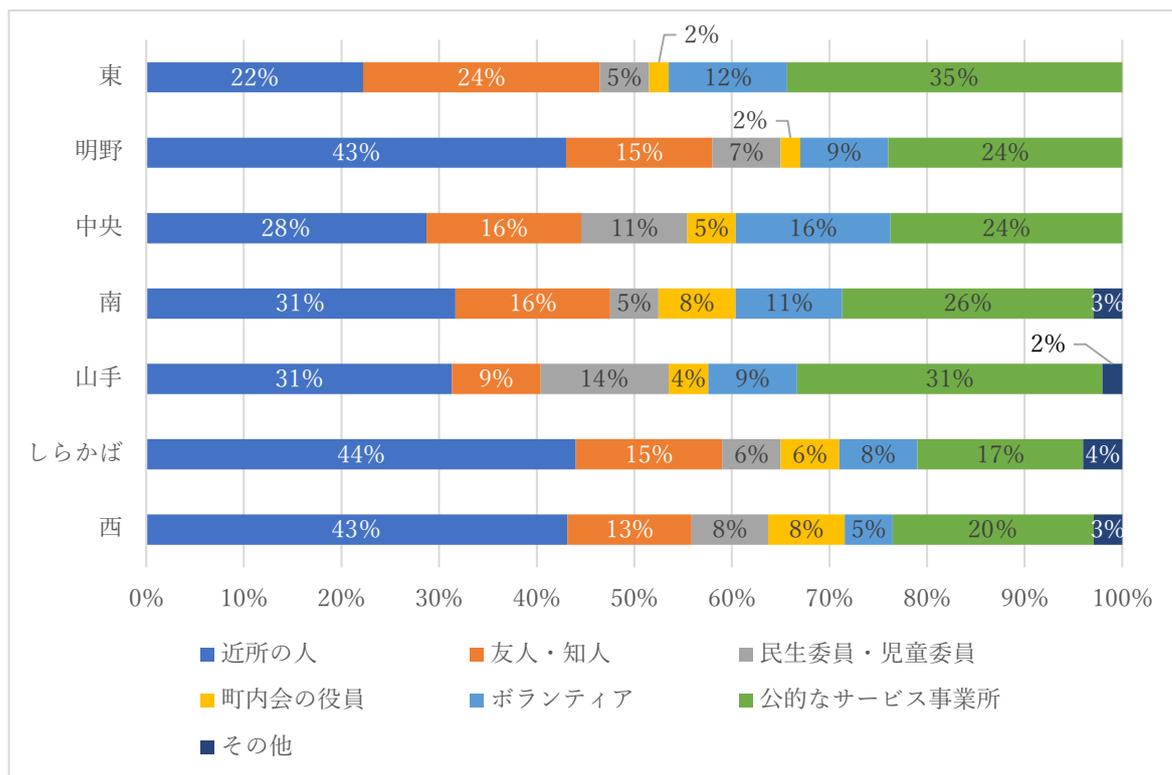


(4) あなたが受けたいと考える支援は何ですか？



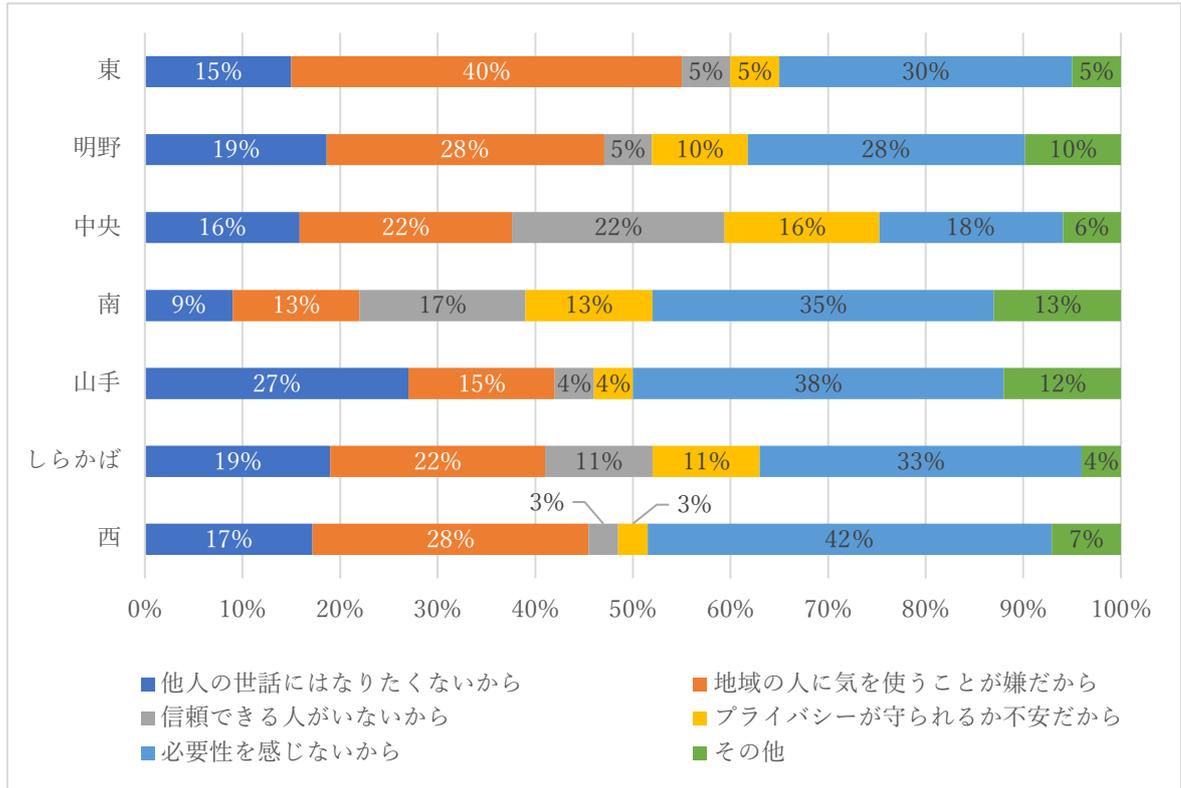
- 自らが支援を受けることについては、約半数が「どちらともいえない」と回答していますが、「受けたい」「どちらかといえば受けたい」合わせて、全体の 38%程度となっております。
- どのような支援を受けたいかという問いに対し、声かけや、災害時等の支援を挙げる方が多く、ニーズとできることが一致している結果となっております。
- 支援を受けることへの抵抗感が依然としてあることなどから、「どちらともいえない」という回答が多くなっているのではないかと考えられ、今後も助け合いの風土づくりが重要であるのではないかと考えます。

(5) 協力を受けるとしたら、誰にしてほしいですか？



○近所の人と回答した方が35%と最も多くなっており、特に西部圏域で4割を超え、近所の支援が必要であると感じている方が多い結果となっております。しかし、比較的若い世帯が多い東包括圏域では、近所と回答した方は2割程度にとどまっており、友人知人が他圏域に比べて多い結果となっております。

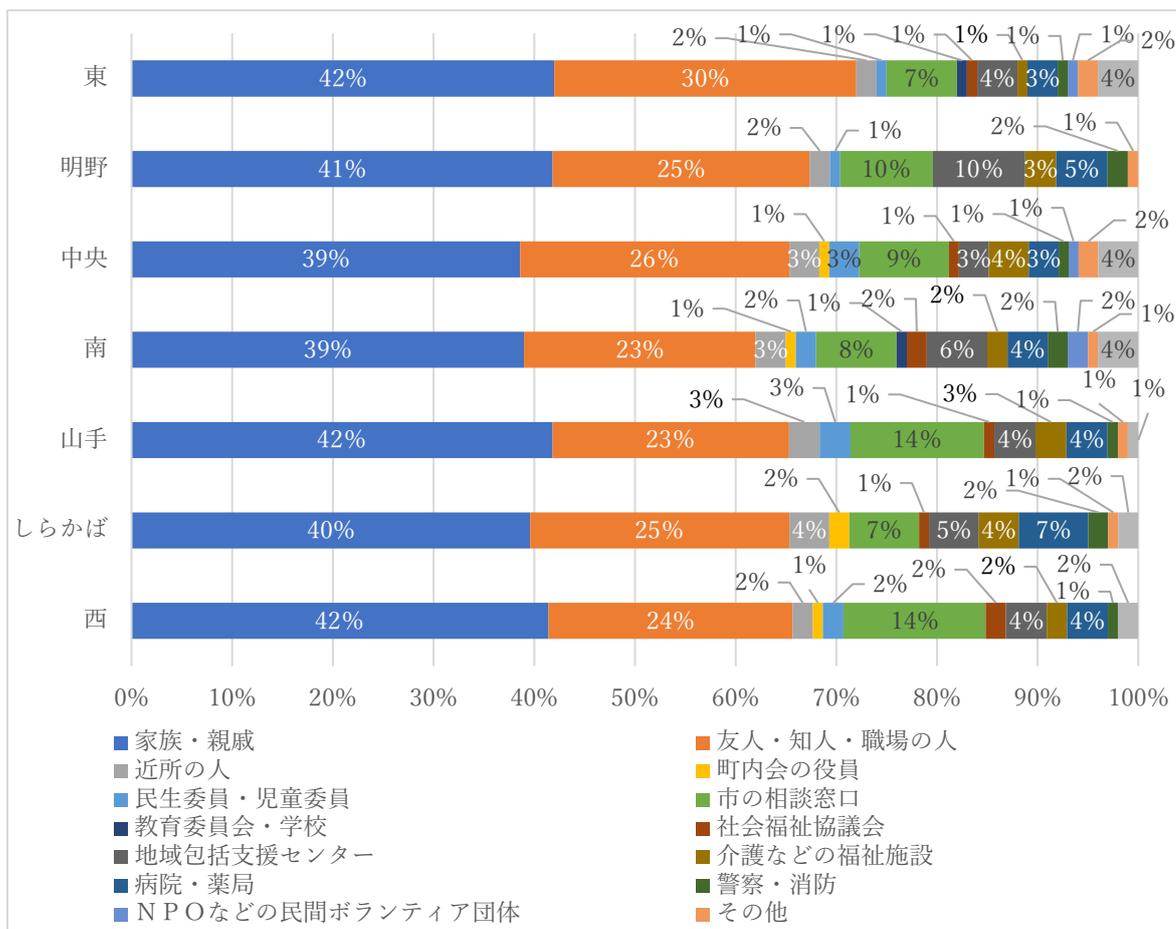
(6) 協力や支援を受けたくない理由は何ですか？



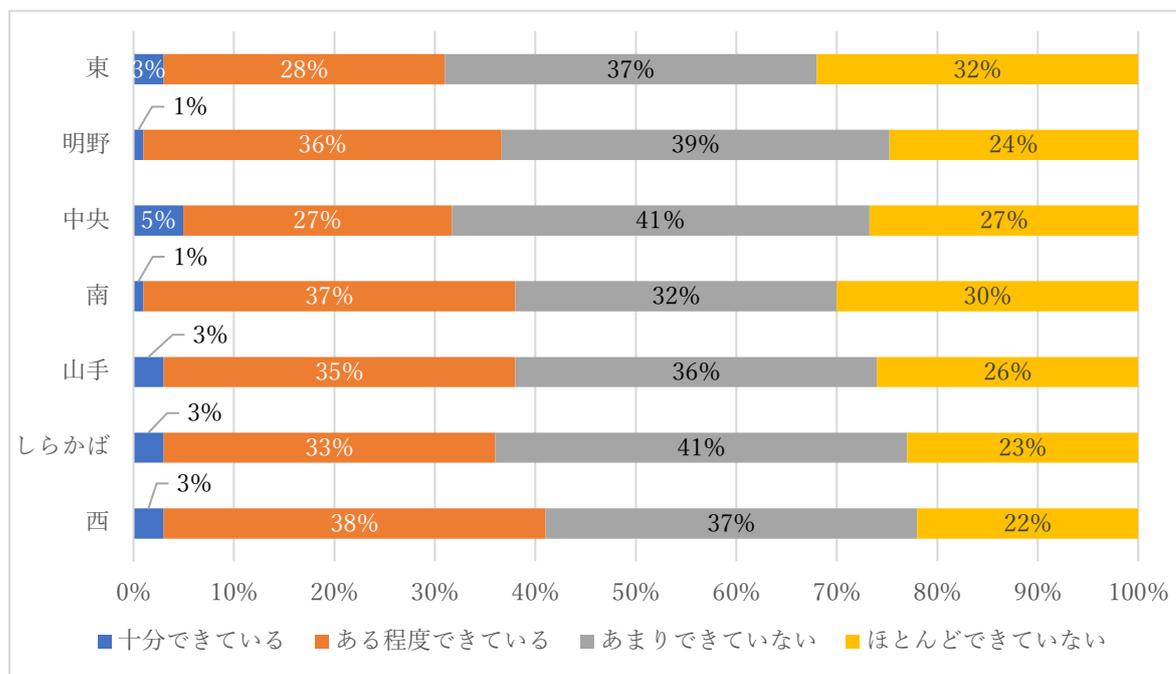
- 支援を受けたくない理由としては、「地域の人に気を使うことが嫌だ」が多く、東包括圏域では40%の住民がそのように考えており、近所付き合いの希薄化が他圏域に比べて進んでいるように思われます。
- 「必要性を感じないから」と回答した方も全体の3割を超えており、便利な社会となり、自己完結できる若い世代に、地域での助け合いの必要性があまり感じられていないこともうかがえます。

4. 相談と情報

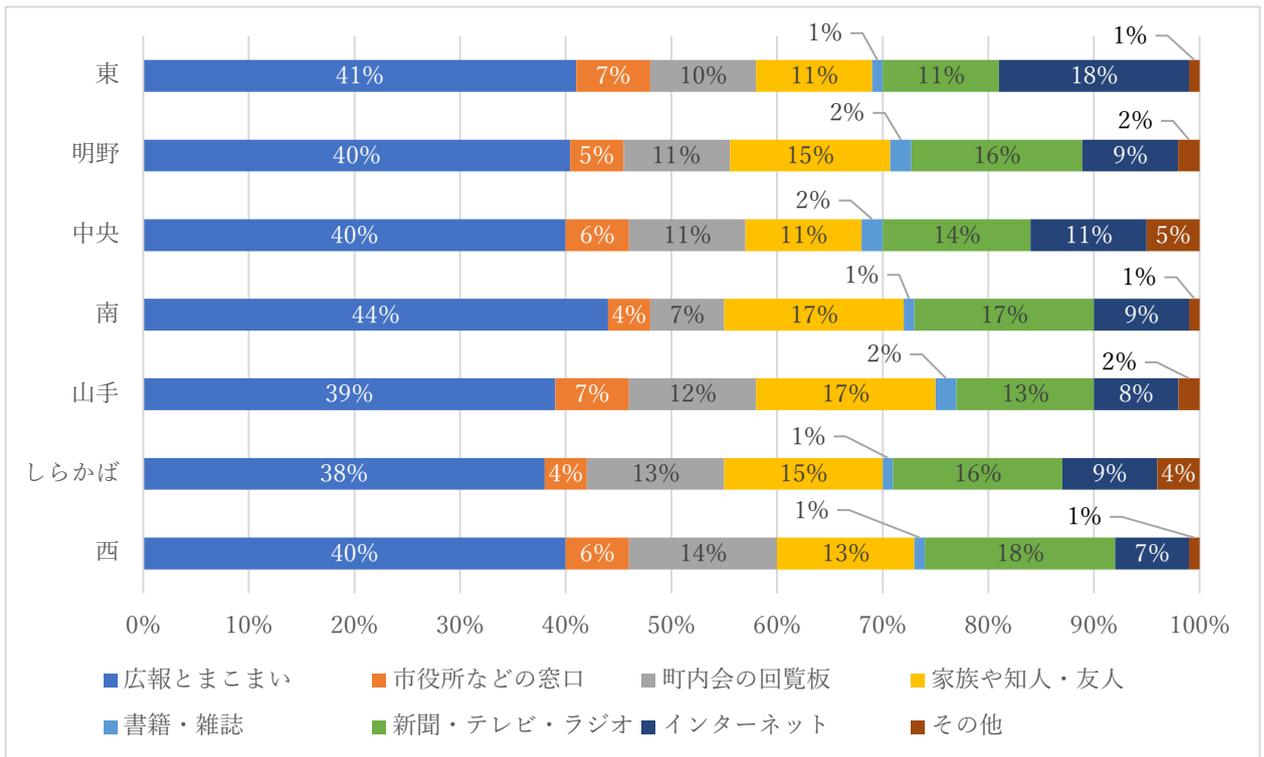
(1) 悩みや不安を感じたとき、誰に相談したいですか？



(2) 福祉サービスや施設などについて必要な情報は入手できていますか？



(3) 福祉に関する情報をどのような方法で得ていますか？



- 悩みや不安についての相談は、家族・親戚と、友人・知人で 65%となり、市の相談窓口は 10%、社協は 1%という結果になっています。
- 公的な相談窓口ではなく、家族や友人等への相談が多くなっており、社協はわずか 1%と少ない状況です。公的な相談窓口としても気軽に相談できるような体制整備が求められています。
- 情報については、福祉施設などの情報が十分に得られていると感じている方はまだまだ少なく、情報を得るという面では、十分な満足を得られていないようです。
- 情報ツールとしても、「広報とまこまい」が最も多く、社協が新たなツールとして始めた LINE や facebook などのインターネットツールは、全体の 10%と少なく、若年層の多い東包括圏域でも 18%にとどまっています。情報ツールとして、これからの普及が望まれます。

第3章 計画の基本事項

1. 基本理念

「ともに支えあい、みんなの笑顔が見えるまちづくり」

実践計画の策定にあたり、活力あるまちづくりのために、社協と市民が住みやすいまちづくりという目標に向かう活動であるということが重要であると考えます。

苫小牧市社会福祉協議会では、みんなが笑顔になり、市民と協働した支えあいのまちづくりのため、この基本目標を定めました。

2. 基本目標

基本目標達成のため、次の3つの柱を基本目標とし、市民との協働をすすめ、まちづくりを推進していきます。

第6期では、特に苫小牧市地域福祉計画とリンクし、「ひと」「ちいき」「まち」というキーワードを基に、個人から地域、地域から市全体へとテーマを分け、各取り組みに連動性を持ち、基本理念に基づく地域づくりを行っていきます。

(1) 安心して暮らせる支援体制づくり (ひと)

(2) 笑顔あふれる地域づくり (ちいき)

(3) 地域から信頼される社協づくり (まち)